友の会事業活動から

友の会主催　解説・鑑賞会

ミュージアム コレクションⅠ
「美術家たちの沿線物語　大井町線・目黒線・東横線篇」
解説：池尻豪介学芸員

友の会寄贈作品解説「小川千甕《越後遊絵日記》」
解説：鈴木照葉学芸員

6月5日（日）　参加者24名

遊佐昌憲

標記の解説・鑑賞会を受講して、さらに世田谷に愛着がわきました。世田谷には多くの美術家、文化人が居住し芸術活動をしてきた歴史があります。岡本太郎も1953年までこの地で若手芸術家の中心に立って二科展での創作、ピカソ訪問やパリ、ニューヨークでの個展開催をするまでの華々しい活動をしました。モンマルトル、モンパルナスと同様に、世田谷には芸術家が集う文化的土壌があるのでしょうか。ゴッホの手紙の中でも「日本の画家達が互いに愛し合い助け合い兄弟同士のような調和のある暮らしをしたのを我々は見習うべき」として、パリの生活に疲れアルでの芸術家の共同体をつくる夢をもっていました。このことがその答えの鍵になるのかもしれません。

小川千甕の作品も相まって、日本人による芸術と西洋のそれとの違いは何かを考えさせてくれる知的好奇心の旅に誘い、また日本人としての誇りをもたせてくれる、そんな鑑賞会でした。

友の会主催　解説・鑑賞会

「こぐまちゃんとしろくまちゃん
絵本作家・わかやまけんの世界」展
解説：加藤絢学芸員

7月30日（土）　参加者22名

常木敏子

こぐまちゃんシリーズは、誰もが一度は目にしたことがある人気の絵本で、懐かしく思われた方も多いことでしょう。加藤絢学芸員は、絵本作家・若山憲氏の生い立ちから、絵本作家への歩み、また他のクリエイターとのコラボレーションまで、多数の作品を取り上げながら詳しく解説してくださいました。

特に若山氏の絵本には、おとぎ話の中に厳しい現実も伝えるという子どもたちへのメッセージが含まれていることがよく理解できます。また、作風が豊富で、ひとりの絵本作家が描いたとは思えない数々の作品に驚かされました。なかでも『きつねやまのよめいり』は淡く優しい色彩が特徴的で、こぐまちゃんとは正反対の印象を受けます。今回の展示のメインである「こぐまちゃんえほん」シリーズは、ディック・ブルーナから影響を受け、「日本の子どもたちがはじめて出会う絵本を創りたい」という思いから誕生したそうです。加藤学芸員の丁寧な解説により、展示もより楽しく鑑賞できました。

水墨画講座「仙厓と禅画」

講師：佐藤良助

6月8日（水）～7月27日（水）　全8回　参加者20名

「水墨画講座」を終えて　　木下千里

「仙厓と禅画」の講座名に惹かれて受講しました。書道の授業以来、懐かしい気持ちで硯に向かい、筆で絵を描く時は、少し緊張したりしました。

竹、○△□、紫陽花、虎、力士、滝等のモチーフを先生の興味深いお話や技法の説明、実演を交えて描いていきます。あまり形に捉われず、気の向くままに筆を運ぶのは、楽しい体験でした。

8の字で面を構成する描き方や、渇筆やたらしこみの技法は、筆づかいに慣れるまで難しかったのですが、回を重ねる度に筆に気持ちを込められるような感覚になりました。また、思わぬ水墨のグラデーションや渇いてからの印象の変化は面白かったです。そして、絵画制作のみならず、講座を通じて、時代や東西を問わず、本質を表現することに注目して作品を観ることや、自分なりに何をどのように描いていくかということを改めて考えることができました。

先生、友の会スタッフ、クラスメートの皆様、ありがとうございました。

木彫刻講座

講師：三宅一樹

6月10日（金）～7月29日（金）　全8回　参加者20名

「木彫刻講座」を終えて　　名古屋 隆

観測史上最速の梅雨明け宣言というニュースが流れる中、今夏の水不足を心配しながら、世田谷美術館へと向かった。「友の会木彫刻講座」に参加するためだ。彫刻は全く初めての体験で、不安と期待が交錯していた。まず三宅先生から渡された重く大きな木材を、これからどうすれば良いのかと早くも途方に暮れた。しかしモチーフの決定、スタイロフォームでの試作制作、「線と面」を作りだすことが基本であるということ、何よりも「抽象彫刻」の概念について情熱的な指導を受け、頭の中がだんだんとクリアになっていく。

自宅へ持ち帰り、寝食を忘れ、のみと指を打ち続けた。心で捉えたカタチが見えてくることへの感動が溢れ出る。「物をもって語らしめよ」どこかで読んだ言葉が突然浮かんできた。まだまだ知らないことばかりだが、当初抱いていた不安は梅雨明けとともに消え去り、新たな制作への意欲が湧いてきた。

銅版画講座

講師：浦辺佳奈枝

9月2日（金）～ 10月14日（金）　全6回　参加者16名

銅版画講座に参加して　　萩原達也

万歳、疫病蔓延で中断し3年目に漸く再開した懐かしい浦辺先生の銅版画講座。さっそく銅板にグランド液をかけニードルでエッチング作業開始。一方メゾチントの方もベルソーで何時間も銅板の目立てをしてはスクレーパーやバニッシャーで消すシジフォス的仕事が始まる。銅版作成の静謐で濃密な時間、深い思いあるモチーフを金属に刻む。失われた時を求めてさまよい、取り戻せない時、それをどうやって手の平ほどの小さな銅板に閉じ込められるのか。エッチングは線描、腐食の作業を繰返し銅板に太い線、細い繊細な線が溢れてくる。試し刷りをしてまた修正する夢追い作業だ。更にアクアチントや紙やすりで面の表情を加える。あい間に3年前に作った4cm四方メゾ版の鯨をハーネミューレに刷る。黒インクをつめて湿らせた紙を銅版にのせ黒く巨大な蒸気機関車の様なプレス機を廻す。鯨の髭と海を少し削ろう。ビロードの黒が美しい。アリスは雁皮紙で。和紙も刷りたい。

私のお薦めアート本

能美 清

4、5年前、本屋で「誰がムンクの『叫び』を96億円で落札したのか」のキャッチに引かれ手に取った本が『巨大アートビジネスの裏側』という本です。内容は、なぜ競売額が高騰するのか、美術作品の資産としての意味、競売会社の仕事などです。

気分よく脳天気に美術に接していた小生にとって真逆の欲望世界アートビジネスはどうなっているのか野次馬的に興味をそそられました。が、思った以上に考えさせられた本でもありました。それは美術の奥の深さ、美術と人類のかかわり、これから美術はどこに向かっていくのかの記述です。その中で特に感銘受けたのは「共感力」の大切さを著者が言っていたことです。その「共感力」とは美術に興味ある人はもちろんない人にも共感できる作品ということです。さらに共感とは作品中に「自分自身が投影できる作品」と言っています。ムンク、ゴッホが強いのはその共感力が強いからでしょう。そんな時、小生はただうまく描くことに限界を感じていました。この自分自身を投影する作品を意識することで次のステージが見えるきっかけをくれた本でもありました。

みんなのギャラリー

新しい自分を、ありがとう。　　本田茂信

砧公園の木々に埋まる、三角形をモチーフとした美術館のデッサン授業は、抽象を知る、感動となりました。私は世田谷美術大学の卒業生です。美術を学び、実技は、日本画、彫刻など全てが初めて。道具を揃える楽しみ、海外写生旅行とか、素晴らしい仲間にも会えました。ステップアップや友の会にも参加。

正三角形をモチーフとした世田谷美術館

そしていま、Free（自由）にArtし、人と触れ合うフレ・アート。Fre・Artとして、世田谷美術大学の卒業生、一般の方、子どもたちが集い、みなさんが先生、みなさんが生徒という想いで、一人ひとりの個性や技術の発見を目指しています。経験豊富な方のお話、そして写生、モデルデッサン、展覧会の鑑賞などさまざまなアートに触れ、切磋琢磨し合うフレ・アートな、会に発展しました。美術を通して、新しい自分を感じています。

世田谷美術館に、ありがとう、です。

アートライブラリー通信

第7回　視聴覚資料も充実！ 映像で知るセタビの活動

当館の地下中庭にすっくと立つ高さ3mの《恐竜》。この作品は、世田谷美術館開館記念展「芸術と素朴」の第4章「子どもと美術」関連ワークショップにて、区内の子どもたちによって制作されたものです。

その制作過程を記録した映像が『素朴のエネルギー』（世田谷美術館、1986年、25分）。子どもたちが、制作物の決定から粘土の成形、素焼き後の釉薬掛けまで一連の工程を協力し合いながら進める姿が収められています。賑やかな声、真剣な眼差し……映像からは子どもたちの力強いエネルギーを感じることができます。

この映像資料は、同展開催中に展示室で公開されていたもの。さらに展覧会図録『芸術と素朴：世田谷美術館開館記念展』（世田谷美術館編、1986年）の頁を開けば、ワークショップの目的や映像制作の意義など具体的な内容を知ることができます（360-363頁）。臨場感を味わえる「映像資料」と、詳細な情報を得られる「文字資料」、併せてご覧いただくと活動の内容がより鮮明に浮かび上がってきます。

他にもアートライブラリーでは、美術や世田谷ゆかりの文化人に関する映像資料（DVD）を約150本公開しています。この内、当館で過去に行われたイベントの映像資料は約40本。貴重な活動記録となっています。アートライブラリーで、これまでのセタビの活動を追体験してみるのはいかがでしょうか。

（世田谷美術館学芸部　司書／須藤美麗）

アートライブラリーの一角にある視聴覚資料ブース。ご利用になる時は、カウンターへお気軽にお声がけください。

友の会の皆様とともに

世田谷美術館 副館長 橋本善八

1987年4月、18名の発起人の連名で、「世田谷美術館友の会設立趣意書」が世に出されました。それは、世田谷美術館が開館して、ちょうど一年を経た時のことです。

趣意書には友の会がめざすところの要旨として、「私達はここに友の会を設立し、美術館の協力を得ながら、美術に親しむ人達が集い、自ら美術文化を学び、創造し、交流するとともに、美術館の活動を支援することによって、美術館活動のより一層の充実と、地域文化の向上をめざしていきたいと思います」と記されています。

世田谷美術館友の会は、有志の皆様が設立してくださった任意団体ということになりますが、この要旨の通り、その活動はまさに美術館活動と寄り添うものであり、双方の一体感なくして成立しないものであると、あらためて確信しています。

遡れば、この趣意書が発せられる半年ほど前から正式な準備会が開催され、やがて発起人会が組織され、会の規約作成などが精力的に進められたことが記録されています。まさに、現在の友の会活動の礎を築く作業が行われたわけです。

友の会会員作品展での橋本副館長の講評

友の会設立から、今年で35年を迎えましたが、美術館とともに歩んだ歳月のなかで、友の会と美術館は手を携えながら、さまざまな試みを重ね、そして具体的な連携をはかってきました。そして、私どもは数え切れないご支援をいただいてまいりました。

長年にわたって代表世話人をつとめられた鬼塚滿壽彦氏は、『友の会だより』の創刊号（1987年8月）の巻頭言に、「“美を愛好する”という立場では、誰もが同じである集いにしたい。という願いをこめて、お互いが美を享受しよう。その為には、会員全員が会の担い手である」と記されています。

こうした、設立当時の精神が、今もなお大切にされ、現在の会員の皆様の心に深く根をおろしていることと存じます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、社会活動が大きな制限を受けるなかで、友の会の事業も多大な打撃を受けていらっしゃいます。

美術館の事業そのものが、感染症の影響を受けているので、友の会においても会員の減少、主催事業の中止や縮小など、かつてない窮状に陥るという状況は避けがたいことかもしれません。しかし、世話人の皆様をはじめ、関係各位が力を合わせ、コロナ禍であっても、会の事業を継続させ、会員の皆様に参加を促そうという努力を重ねておられる姿を目の当たりにし、私はほんとうに頭が下がる思いを得ております。

まだしばらくは、ウィズ・コロナといわれる時期が続くと思いますが、会の設立趣意書に添って申し上げれば、地域文化の向上をめざすために、友の会の皆様とともに、酒井館長をはじめとする館職員が協働し、出来得る限りの努力を重ねていくほかないと思っております。

世田谷美術館という器を舞台に、友の会の皆様と美術館は一体となって芸術に向き合い、それを考え、分かち合っていく関係を育み、ともに学びと気づきの場を耕してまいりたいと存じます。

世田谷美術館友の会の益々のご発展、ご活躍を祈念するとともに、深い感謝の意を添わせていただきます。

思い出の美術館

滴翠美術館

田辺千恵子

六甲山の美しい緑を背景に滴翠美術館はあります。阪急電鉄芦屋川駅下車、芦屋川を右下に見て山芦屋の坂を少し登った所、閑静な住宅街の一角に佇んでいます。以前関西に住んでいた時にこの美術館を知り、併設されている「滴翠窯」に通うようになりました。

建物は故山口吉郎兵衛（元山口銀行頭取）の邸宅でしたが、主人亡き後遺志を継いだ夫人が住居を改装、山口氏の雅号の「滴翠」をとり美術館を開館。建築は昭和の関西モダニズム20選などにも選定されていて、六甲山の山裾の深い緑を取り込みながら、昭和のモダン住宅のエッセンスが此処彼処に散りばめられた、どこか洒落たそれでいて落ち着きのある懐かしさを感じさせてくれる建物です。美術館の大きな特徴は、茶人であった山口氏の陶磁器を中心としたコレクションと共に、敷地内に窯・陶芸教室「滴翠窯」が併設されていることです。

滴翠美術館のホームページから

近くに住んでいたこともあり四季折々の美しい自然の中で、初めての土ひねりを楽しめたことは貴重な経験となっています。自然豊かな中にある世田谷美術館と、どこか在り様が似ているような気がします。

受賞

このたび鬼塚滿壽彦 世田谷美術館友の会顧問が、世田谷美術館友の会活動への多大な貢献によって世田谷区の区制施行90周年記念特別文化功労表彰を受賞されました。心よりお祝いを申し上げますとともに会員の皆さまと喜びを分かちあいたいと存じます。

■静嘉堂文庫美術館との相互割引について

静嘉堂文庫美術館の展示スペースが、本年10月1日から東京丸の内にある明治生命館（重要文化財）へ移転します。どうぞご観覧ください。またこれまで行ってきた世田谷美術館と同館との相互割引は、2023年1月2日より再開します。

＊いずれかの館の企画展をご覧になった有料観覧券の半券の提示で、相互に観覧料が200円引きとなります。ただし、両館が1年以内に発行した入館券に限ります。

チケット1枚につき1名様、1回限り有効。ぐるっとパス、招待券は対象外です。また、他割引との併用はできません。

詳しくは静嘉堂文庫美術館のウェブサイトでご確認ください。

＊世田谷美術館友の会会員の皆さまは友の会会員証の提示で静嘉堂文庫美術館の観覧料が200円引きとなるほか、世田谷美術館の観覧料が無料となります。

写真上：重要文化財 明治生命館 外観
写真下：国宝《曜変天目（稲葉天目）》南宋時代（12–13世紀） 静嘉堂文庫美術館蔵

世田谷美術館友の会への入会のご案内

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「芸術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

お問い合わせは友の会事務局へ
入会案内（リーフレット）や下記ホームページもご覧ください。
tel.03-3416-0607
https://setabi-tomonokai.jp/